



北 中 だ よ り

学校教育目標「自ら考え なかまと磨き合う 北中」

菊池北中学校
学校だより
No38
文責 芹川博文
1月31日(金)

「無意識の 差別の心 気をつけて」

～ 人権標語・人権作文 北中生の思いから考えさせられること ～

菊池北ブロック協議会 人権標語入賞作品

「無意識の 差別の心 気をつけて」 熊谷 愛奈

「心の中で思ってしまうことや偏見について、実際に相手がどう思うかについて考えました」と、熊谷さんは思いを語ってくれました。

多様性の時代と言われます。だからこそ人としての尊厳を大切にすべき時代だと考えます。SNS 上での誹謗中傷について思いを綴った松永さんの作文、「見えないから、ばれないから」の思いとも重なります。無意識の自分の心を見直し、社会で起きている状況を「自分ごと」として捉えた二人の言葉。自分の生活と重ねたいと思いました。



全国中学生人権作文コンテスト山鹿支局管内 優秀賞

「見えないから、ばれないから」 松永 祐佳

X、インスタ、ティックトック、ライン、ユーチューブ・・・私たちの身の回りには SNS という誰でも自由に表現し、発信することのできるネットツールであふれかえっています。SNS の本来の目的は、SNS を通じて自分の思うことを気軽に自由に発信し、友好関係を広げることです。しかし、今日の状況を見ると批判的なコメントやその人自身を否定し、傷つける書き込みが問題になっています。

今年開催されたパリオリンピック・パラリンピックでも、出場選手に対する誹謗中傷が後を絶ちませんでした。SNS の心無い書き込みによって自殺まで追い込まれた有名人のニュースを目にしたこともあります。また、SNS では匿名での投稿ができます。匿名を使うことでプライバシーが守られて自由に発言できます。しかし、それを悪用した誹謗中傷もたくさん起こっているのです。(中略)

言葉を発する前に、書き込む前に、一度自分の心にブレーキをかけてみましょう。もし相手が聞いたらどう思うだろう。どう感じるだろう。自分がそういうつもりでなくても、受け取り方によっては、傷つくこともあります。一番大切な事は相手の立場に立って考えることです。相手の顔が見えないから、ばれないから、聞かれていないから。そうやって生まれた悪口によって傷つく人がこれ以上出ないでほしいと思います。(中略)

SNS というツールが、人を否定する場所、誹謗中傷する場所ではなく、安心して自分らしさを自由に発信できる、そんな一人一人の人権が守られたツールになっていったら良いと思います。



生徒オリジナルメニューが給食に

～ 「生活力」を高める衣・食・住 料理から見てくるもの ～

給食献立コンテスト 最優秀賞作品

「白菜とヤーコンたっぷりあんかけ丼」 城本 萌結

「ネットで菊池の特産品を調べたらヤーコンや白菜が出てきました。ヤーコンは給食で何回か食べたことがあるので知っていました。冬に温まるメニューだと思います」とは、メニューを考えた城本さんの言葉です。そのメニューが、ついに今週の給食に登場しました。

とろみのあるあんかけに、シャキッとしたヤーコンの歯ざわり、沢山の野菜や肉で、美味しさも栄養もたっぷりメニューを味わい、心も体も温まりました。

「食」は生活の基盤です。勉強や部活も大切ですが、将来、自立することを考えると簡単な料理くらいは自分で作れる「生活力」が大切です。中学生は義務教育の仕上げの3年間。忙しい中にも、家庭生活の中で料理・洗濯・掃除のどれか、隙間時間にすることは、決してマイナスではないはず。ちなみに私もこの冬、庭畑の小カブを抜き、簡単スープ作りを楽しみました。

